

速報版

第4回 学習指導基本調査 小学校・中学校を対象に

小・中学校における 学習指導の実態や教員の思いとは？

Benesse教育研究開発センターでは、小・中学校における学習指導の実態や、教員の意識をとらえることを目的として、アンケート調査を実施しました。この調査は、1997年、1998年、2002年にも実施しており、過去10年間にわたる学校現場の変化をとらえることができます。今回お届けする「速報版」は、調査結果のなかから、特徴的なデータを取り上げてご紹介するものです。

調査概要

調査テーマ

小学校・中学校における学習指導の実態と教員の意識

調査方法

郵送法による質問紙調査

調査時期

2007年8月～9月

調査地域

全国

調査対象

1- 教員調査

公立小学校の教員 1,872名
(配布数9,900通、回収率18.9%)

公立中学校の教員 2,109名
(配布数9,876通、回収率21.4%)

*小学校は学級担任、中学校は国語・社会・数学・理科・外国語のいずれかを担当している教員を対象に実施。

2- 学校調査

公立小学校の校長 528名 (配布数1,650通、回収率32.0%)

公立中学校の校長 559名 (配布数1,646通、回収率34.0%)

*抽出方法… 全国の公立小・中学校のリストより、都道府県の教員数に応じた抽出確率で、無作為に学校を抽出。

①教員調査… 年齢、性別、担当学年、担当教科を考慮した、各学校6名の教員の抽出を校長に依頼。

②学校調査… 校長に回答を依頼。ただし、教頭、副校長、もしくは教務事項に詳しい教員の回答も可として実施。

調査項目

1- 教員調査

- ・日常生活
- ・心がけている授業の進め方や方法
- ・用いている授業方法
- ・総合的な学習の時間
- ・宿題
- ・家庭学習指導
- ・通信簿をつける材料
- ・指導の得意苦手
- ・定期試験
- ・教育観
- ・PISA調査について
- ・児童・生徒の変化
- ・保護者の変化・様子
- ・悩み
- ・満足感
- ・将来展望 など

2- 学校調査

- ・年間授業時数
- ・時間割を組むうえでの工夫
- ・土曜日や長期休業中の指導
- ・教育課程外の時間
- ・習熟度別指導
- ・「学習の記録」の形式
- ・定期試験 など

【97年調査(第1回調査)】

- 調査方法 郵送法による質問紙調査 教職員名簿をもとにした系統抽出(無作為)
- 調査時期 1997年12月～1998年1月
- 調査地域 岩手県・新潟県・東京都・岡山県・福岡県・熊本県(6地域)
- 調査対象 公立中学校の教員 1,368名(配布数5,100通、回収率26.8%)

【98年調査(第2回調査)】

- 調査方法 郵送法による質問紙調査 教職員名簿をもとにした系統抽出(無作為)
- 調査時期 1998年10月～11月
- 調査地域 岩手県・新潟県・東京都・岡山県・福岡県・熊本県(6地域)
- 調査対象 公立小学校の教員 1,161名(配布数5,100通、回収率22.8%)

【02年調査(第3回調査)】

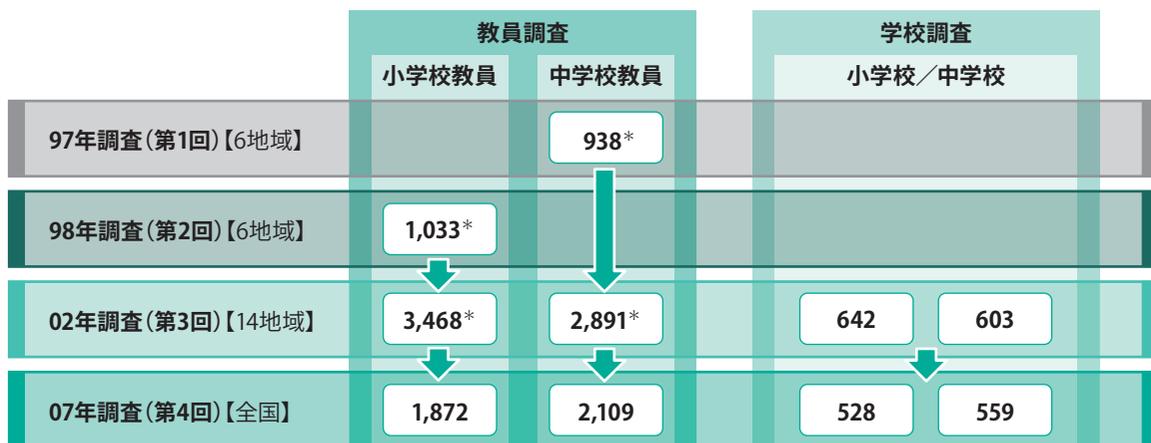
- 調査方法 学校通しによる質問紙調査 地域類型別構成を考慮した割り当て法
- 調査時期 2002年9月～10月
- 調査地域 北海道・岩手県・宮城県・新潟県・石川県・群馬県・東京都・山梨県・愛知県・大阪府・兵庫県・岡山県・福岡県・熊本県(14地域)
- 調査対象 公立小・中学校の教員 7,007名(配布数14,934通、回収率46.9%)
公立小・中学校の校長(管理職) 1,245名(配布数2,489通、回収率50.0%)

*調査項目は経年比較が可能ないように配慮したが、時代の変化に合わせて、追加・削除などの変更を行っている。

*各回、調査方法や対象とした地域が異なり、厳密な比較はできない。

*本調査の詳細な分析は、『第4回学習指導基本調査 報告書』(2008年3月刊行予定)にて報告する予定である。

分析枠組み

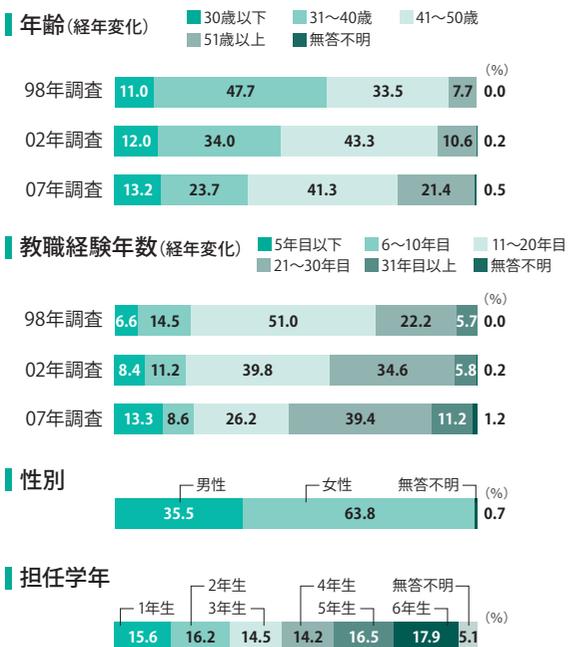


*07年調査の対象と合わせるために、小学校は、学級担任をしている教員を、中学校は、国語・社会・数学・理科・外国語のいずれかを担当している教員を抽出して分析した。

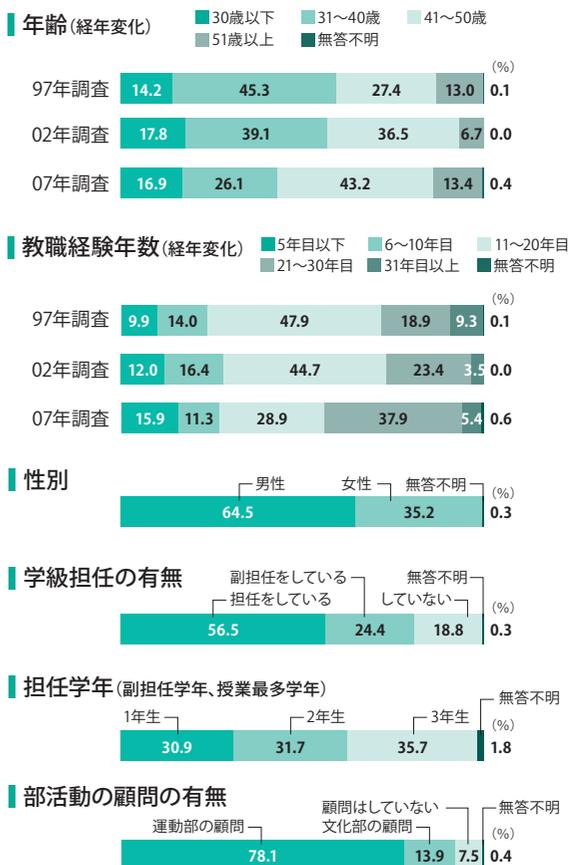
□の数字はサンプル数

基本属性

小学校教員



中学校教員



1 教員の日常生活

1

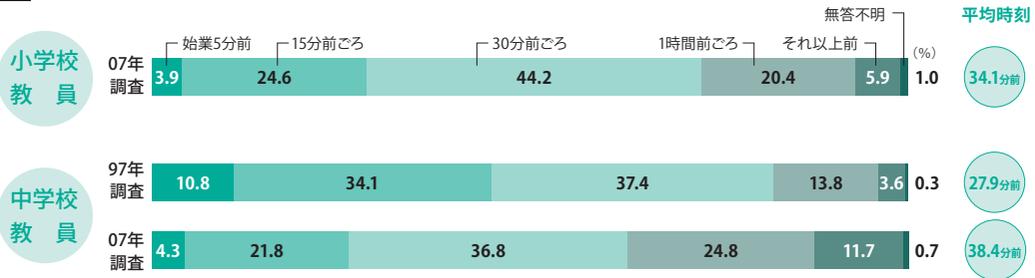
教員の日常生活

退勤時刻が遅くなっている

小・中学校とともに教員の退勤時刻が遅くなり、02年調査に比べて小学校教員では24分、中学校教員では15分遅くなっている。

Q 学校には、始業時刻の何分前に着きますか。

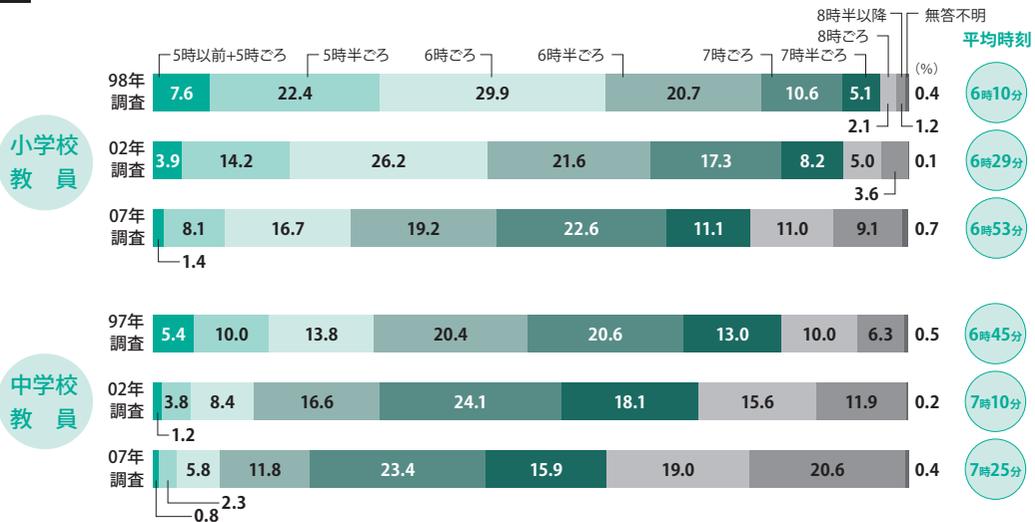
図1-1 出勤時刻（小・中学校教員）



* 小学校の98年調査、02年調査ではたずねていない。中学校の02年調査ではたずねていない。
* 平均時刻は、「始業5分前」を5分前、「それ以上前」を75分前のように置き換えて、無答不明を除いて算出した。

Q 退勤時刻は、だいたい午後何時ごろですか。

図1-2 退勤時刻（小・中学校教員）



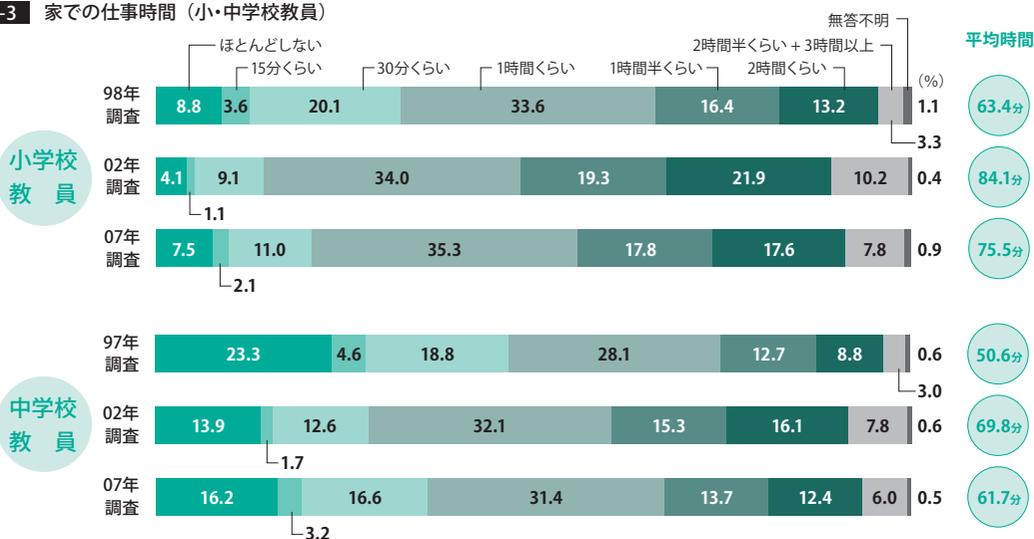
* 平均時刻は、「5時以前」を4時30分、「8時半以降」を8時30分のように置き換えて、無答不明を除いて算出した。

教員の退勤時刻が遅くなっている。小学校教員については、もっとも多い回答が98年調査、02年調査では「6時ごろ」であったが、07年調査では「7時ごろ」になり、「7時ごろ」以降に退勤するという回答が半数を超えた。中学校教員では「7時ごろ」以降に退勤するという回答が、97年調査では半数に満たなかったが、07年調査では約8割になっている。また、退勤の平均時刻を02年調査と比

較すると、小学校教員は24分遅くなり（6時29分→6時53分）、中学校教員は15分遅くなっている（7時10分→7時25分）。出勤時刻は中学校教員のみ経年での比較ができるが、「1時間前ごろ」「それ以上前」が増えており、出勤が早まっている。全体として、教員が学校にいる時間は長くなっているようだ。

Q 家で学校の仕事(教材研究、事務処理、児童・生徒への連絡など)に費やす時間は、どれくらいですか。

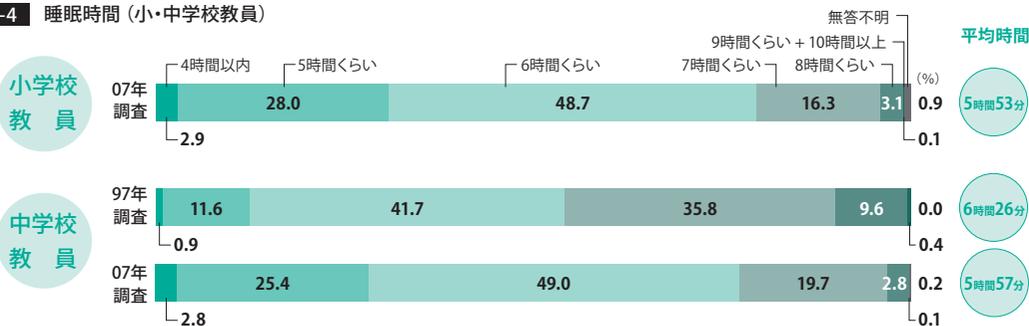
図1-3 家での仕事時間(小・中学校教員)



*平均時間は、「ほとんどしない」を0分、「3時間以上」を180分のように置き換えて、無答不明を除いて算出した。

Q 睡眠時間はどれくらいですか。

図1-4 睡眠時間(小・中学校教員)



*小学校の98年調査、02年調査ではたずねていない。中学校の02年調査ではたずねていない。
*平均時間は、「4時間以内」を4時間、「10時間以上」を10時間のように置き換えて、無答不明を除いて算出した。

表1-1 日常生活の平均時間

	出勤時刻	退勤時刻	学校にいる時間 ※1	家での仕事時間	家で、新聞を読んだり、読書したりする時間	家で、テレビを見たり、音楽を聴いたりする時間	睡眠時間
小学校教員	始業時刻の 34.1分前	午後6時53分	11時間12分	75.5分	31.5分	48.9分	5時間53分
中学校教員	始業時刻の 38.4分前	午後7時25分	11時間48分	61.7分	32.3分	49.2分	5時間57分

*数値は07年調査から算出。

*「出勤時刻」では、「それ以上前」を75分前のように、「退勤時刻」では、「5時以前」を4時30分、「8時半以降」を8時30分のように、「家での仕事時間」「家で、新聞を読んだり、読書したりする時間」「家で、テレビを見たり、音楽を聴いたりする時間」では、「ほとんどしない」を0分、「3時間以上」を180分のように、「睡眠時間」では、「4時間以内」を4時間、「10時間以上」を10時間のように置き換えて、無答不明を除いて平均を算出した。

※1「学校にいる時間」は、8時15分を始業時刻と仮定して、出勤時刻の平均から退勤時刻の平均までの時間を計算したものである。なお、「8時15分」は文部科学省の委託を受けて東京大学が実施した『教員勤務実態調査(小・中学校)報告書』(2007)を参考に定めた。

1

年間授業時数

年間授業時数が増加している
学習指導要領の標準時数よりも多い時数の授業を予定する
学校が増加している。

Q 今年度の貴校の各学年の年間総授業時数は何時数ですか。

図2-1 年間総授業時数（小学校）【学校調査】

2002年実施
学習指導要領
標準時数

※単位：単位時間（45分）

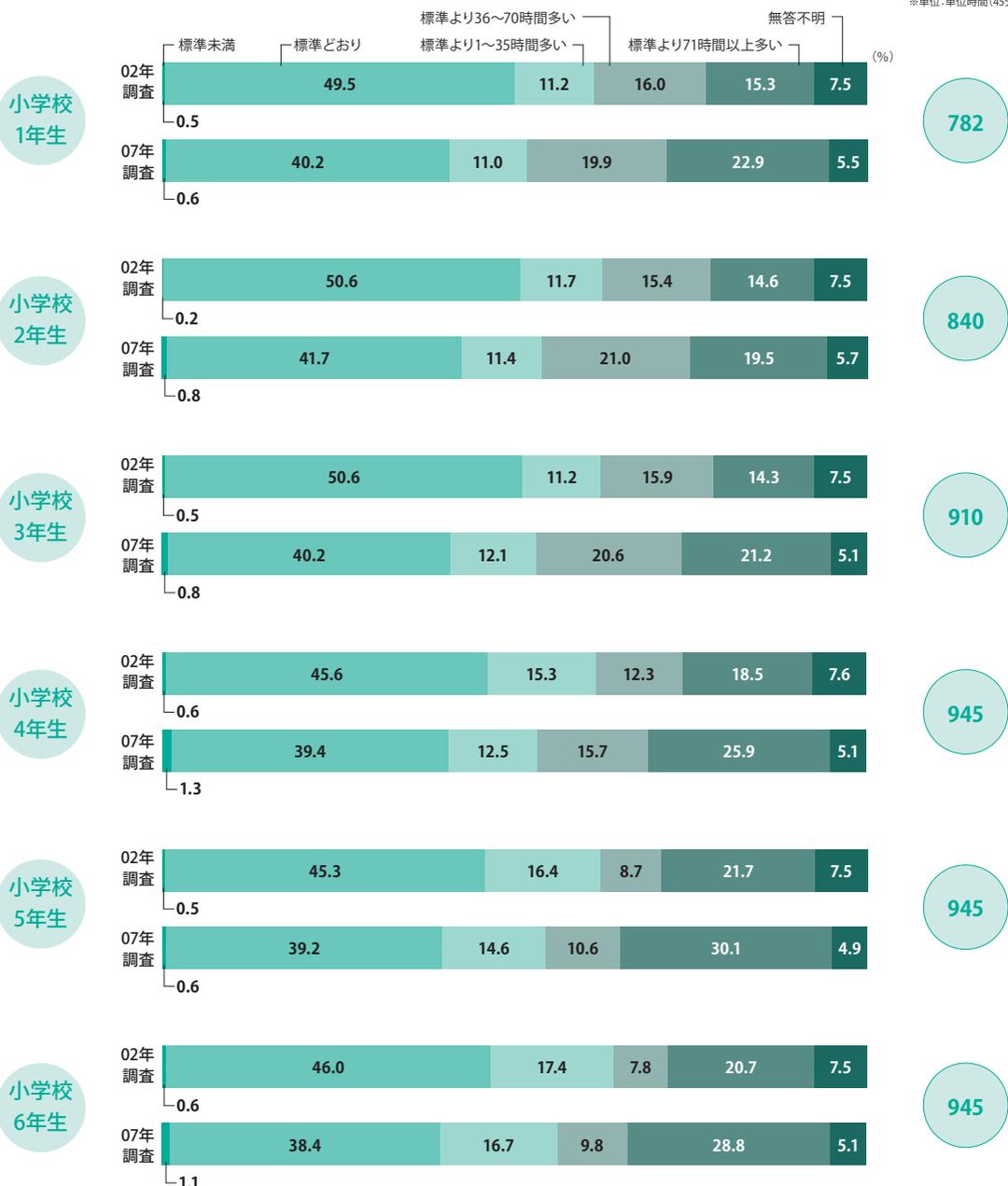
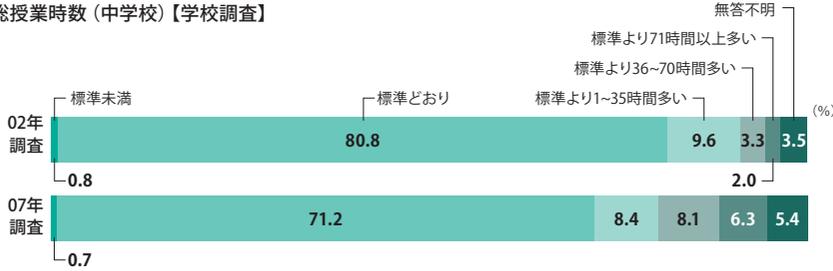


図2-2 年間総授業時数（中学校）【学校調査】

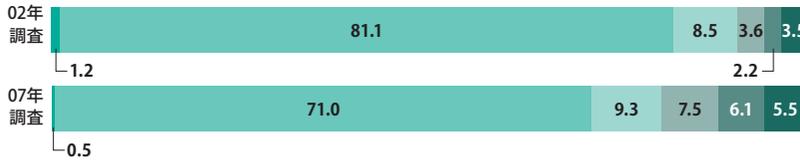
2002年実施
学習指導要領
標準時数
※単位：単位時間（50分）

中学校
1年生



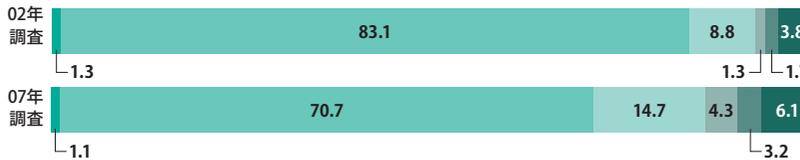
980

中学校
2年生



980

中学校
3年生



980

今年度（2007年度）に予定している年間総授業時数をたずねたところ、02年調査に比べて、「標準どおり」の学校が6～12ポイント程度減少している。いずれの学年でも標準より多い時数を設定

する学校が増加している。また、小学校については、とくに「標準より71時間以上多い」学校が増加していることがわかる。

2 教育課程外の時間

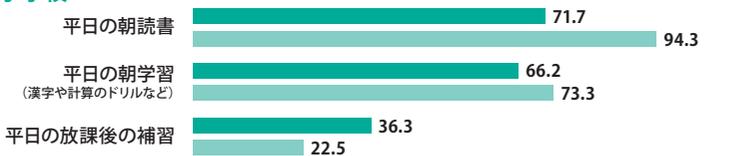
平日の朝読書の実施率が大幅に増加している

平日に朝読書を実施している小学校は02年調査の71.7%から94.3%に、中学校は55.7%から86.6%へと大幅に増加している。

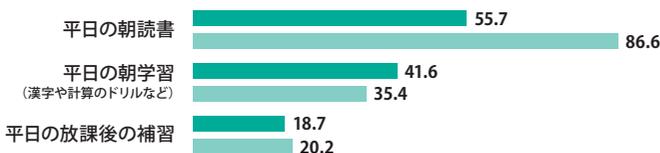
Q 教育課程外の時間の使い方についてうかがいます。貴校では、次のような取り組みを実施していますか。

図2-3 教育課程外の時間の使い方（小・中学校）【学校調査】

小学校



中学校



教育課程外の時間の取り組みについて、02年調査から07年調査への変化をみると、「平日の朝読書」の実施率は、小学校では71.7%から94.3%に、中学校では55.7%から86.6%へと大幅に増加している。「平日の朝学習」については、小学校では7.1ポイント増加（66.2%→73.3%）したが、中学校では6.2ポイント減少（41.6%→35.4%）している。「平日の放課後の補習」は小学校で36.3%から22.5%へと13.8ポイントも減少している。

1

学習指導での 心がけ

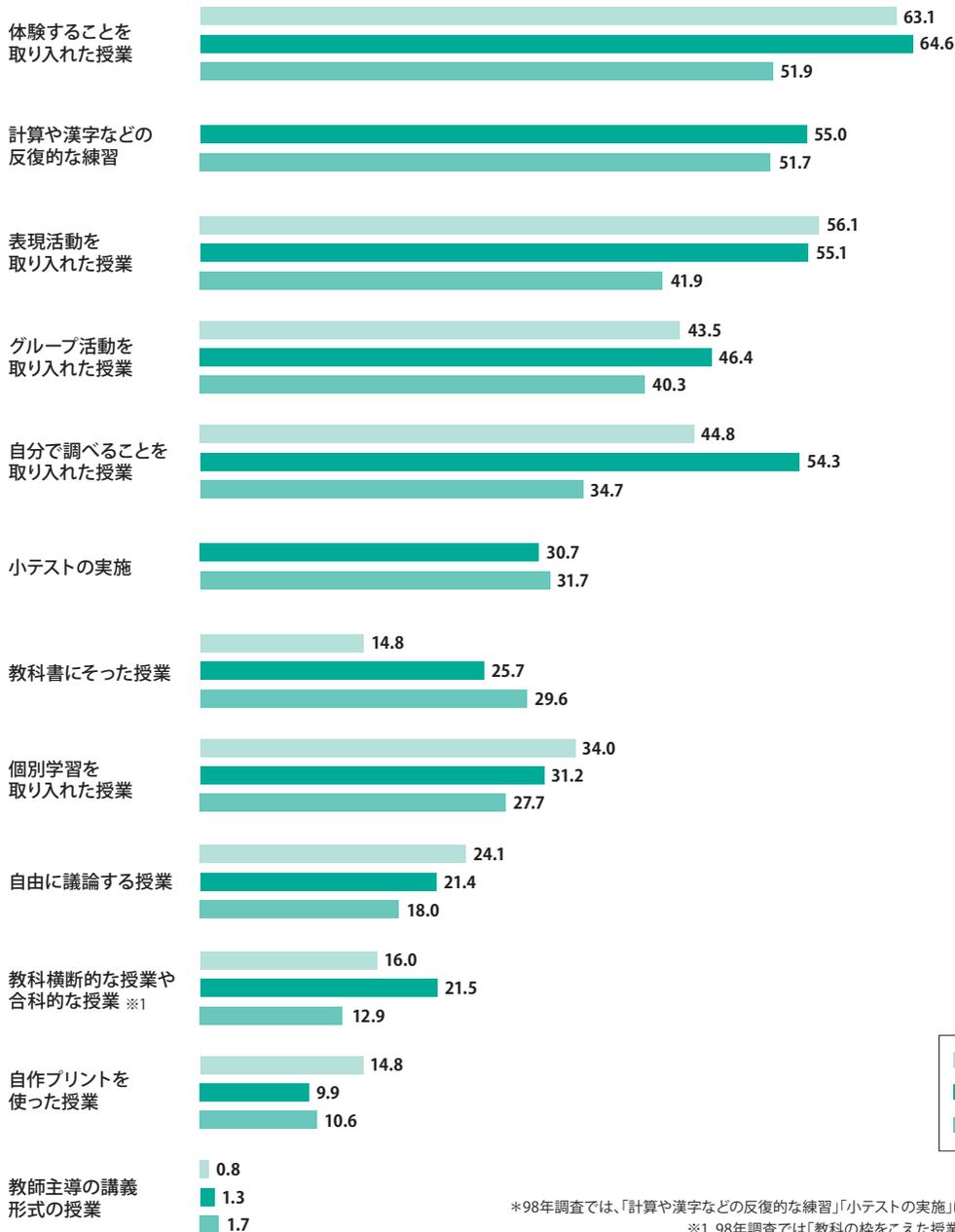
体験的な活動を心がける割合が減少している

「自分で調べることを取り入れた授業」「表現活動を取り入れた授業」が、小・中学校ともに減少している。

Q 教科の授業において、どのような授業方法を心がけていますか。

図3-1 教科の授業方法の心がけ（小学校教員）

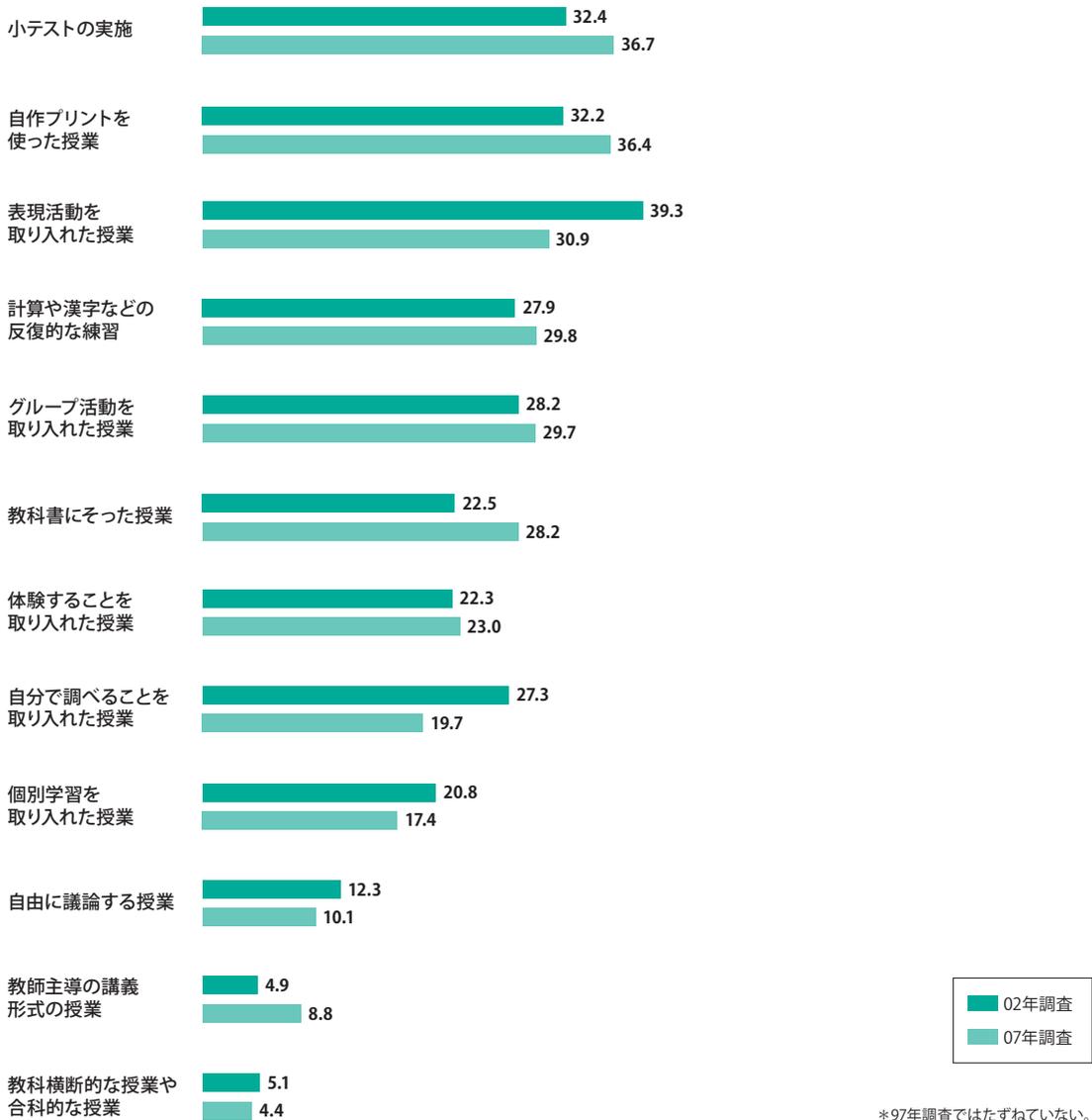
「多くするように特に心がけている」%



*98年調査では、「計算や漢字などの反復的な練習」「小テストの実施」はたずねていない。
※1 98年調査では「教科の枠をこえた授業」とたずねている。

図3-2 教科の授業方法の心がけ（中学校教員）

「多くするように特に心がけている」の%



授業方法について「多くするように特に心がけている」の割合を02年調査と07年調査とで比較した。「自分で調べることを取り入れた授業」(小 54.3%→34.7%、中 27.3%→19.7%)や「表現活動を取り入れた授業」(小 55.1%→41.9%、中 39.3%→30.9%)がいずれも減少している。一方、「教科書にそった授業」が小学校で

25.7%から29.6%に、中学校で22.5%から28.2%へと、小・中学校ともに増加傾向にある。また、中学校では「小テストの実施」や「自作プリントを使った授業」も増加傾向にある。全体としては、体験的な活動を心がける割合が減少し、教科書にそった授業が増えている。

2

授業で用いている学習方法

プリント、市販テストの利用が増加している

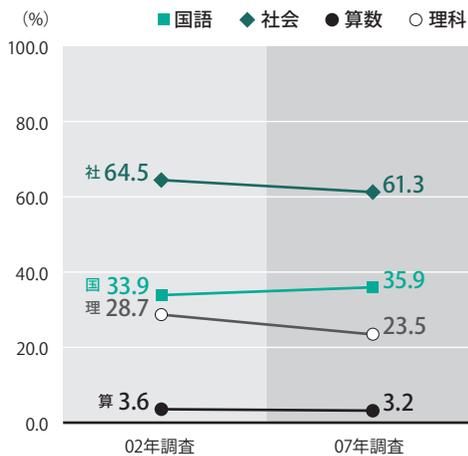
小学校において、「市販プリントを用いての学習」「市販テストの利用」がいずれの教科でも増加している。「コンピュータを使った学習」は理科と社会で増えている。

Q 教科の授業において、次のような方法を用いていますか。(国語、社会、算数、理科をすべて担当している3～6年生の教員のみ)

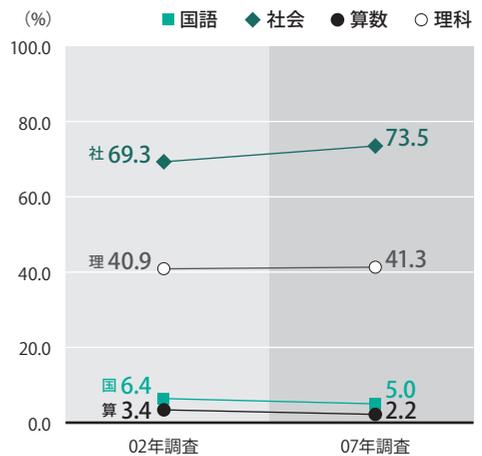
図3-3 教科で用いている授業方法 (小学校教員)

02年調査 (n=1,706) / 07年調査 (n=896)

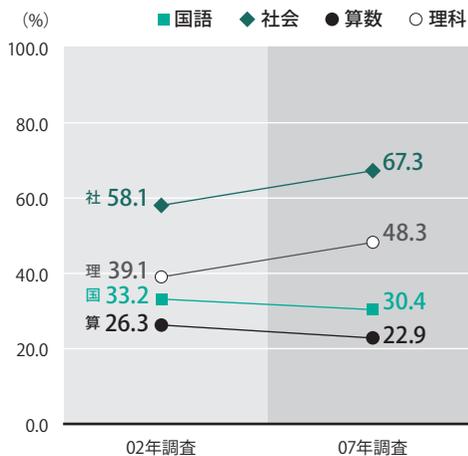
児童にテーマを選ばせて行う学習 (テーマ学習)



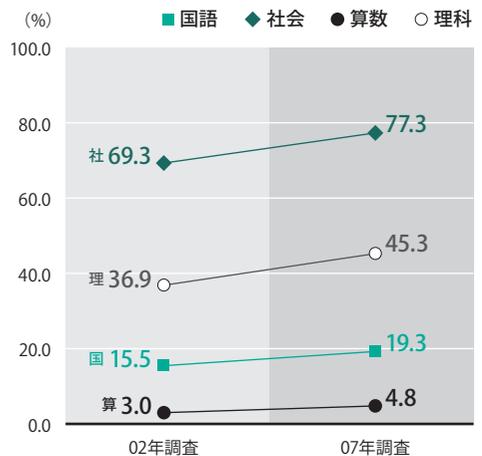
学校外の現場・フィールドでの 体験的方法による学習



コンピュータを使った学習



インターネットを利用した学習



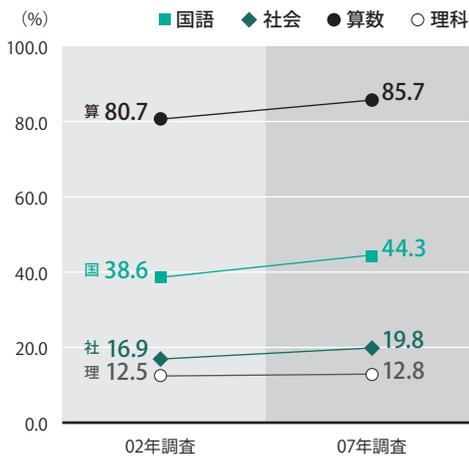
小学校における教科の授業方法について、02年調査と比べると、07年調査では、「市販プリントを用いての学習」「市販テスト（業者テスト）の利用」の割合が高まっている。とりわけ「市販テストの利用」は、いずれの教科でも8割を超え、授業方法として定着して

いる様子が見えてくる。他方、「コンピュータを使った学習」「インターネットを利用した学習」は、社会と理科で10ポイント程度増加した。また、「個別学習」は、国語と算数で5ポイント程度増加している。

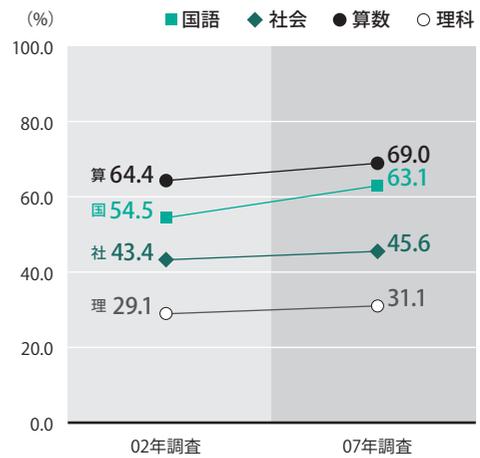
*国語、社会、算数、理科をすべて担当している3～6年生の教員のみ対象。
*16項目のうち8項目を抜粋した。

複数回答

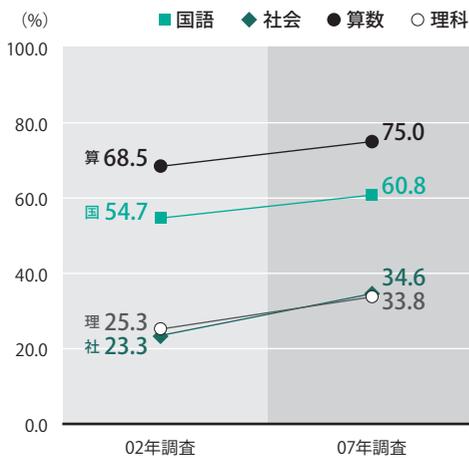
個別学習



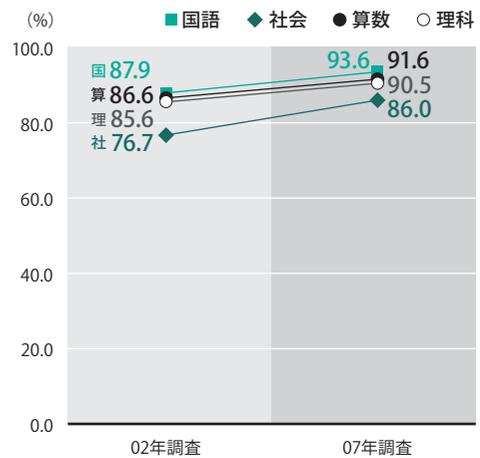
自作プリントを用いての学習



市販プリントを用いての学習



市販テスト（業者テスト）の利用



3

総合的な学習の時間

小学校では「国際理解・英語学習」、中学校では「進路・職業指導」がもっとも実施されている
 小学校では「国際理解・英語学習」が86.6%、中学校では「進路・職業指導」が86.3%と、実施されている割合がもっとも高い。

Q 「総合的な学習の時間」を担当していますか。

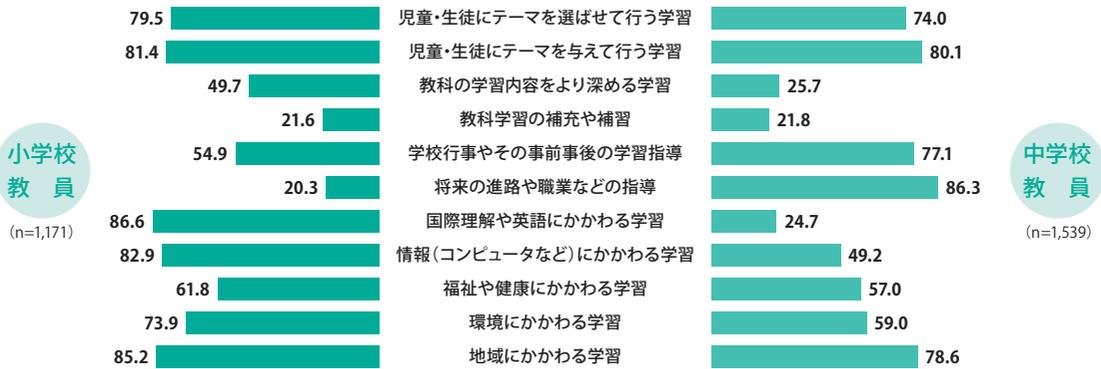
図3-4 「総合的な学習の時間」の担当有無（小・中学校教員）



Q 「総合的な学習の時間」では次のような学習をしていますか。（「担当している」と回答した人のみ）

図3-5 「総合的な学習の時間」の実施内容（小・中学校教員）

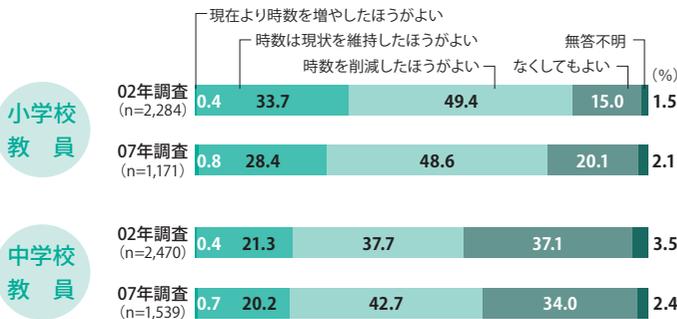
「よくしている」+「ときどきしている」の%



*「総合的な学習の時間」を「担当している」と回答した人のみ対象。

Q 「総合的な学習の時間」の標準時数について、どのようにお考えですか。（「担当している」と回答した人のみ）

図3-6 「総合的な学習の時間」の標準時数についての意見（小・中学校教員）



*「総合的な学習の時間」を「担当している」と回答した人のみ対象。

小学校で6割、中学校で7割の教員が「総合的な学習の時間」を担当している。内容は、小学校では「国際理解や英語にかかわる学習」（86.6%）、中学校では「将来の進路や職業などの指導」（86.3%）がもっとも多い。また、小・中学校ともに、テーマ学習や「地域にかかわる学習」が7～8割で実施されている。小学校では「情報にかかわる学習」（82.9%）、中学校では「学校行事やその事前事後の学習指導」（77.1%）も多い。

4 宿題

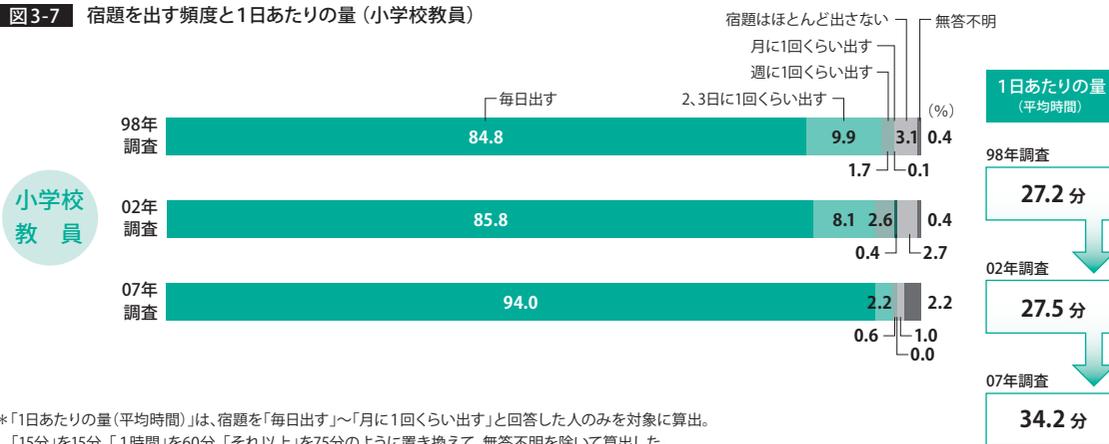
宿題を出す頻度や1日あたりの時間が増えている

小・中学校ともに、宿題を「毎日(授業のたびに)出す」という回答が増加している。とくに小学校では、1日あたりの分量も多くなっている。

Q どのくらい宿題を出していますか。

Q 宿題は、平均的な児童にとってほしい1日何分くらいの量になりますか。(「毎日出す」～「月に1回くらい出す」と回答した人のみ)

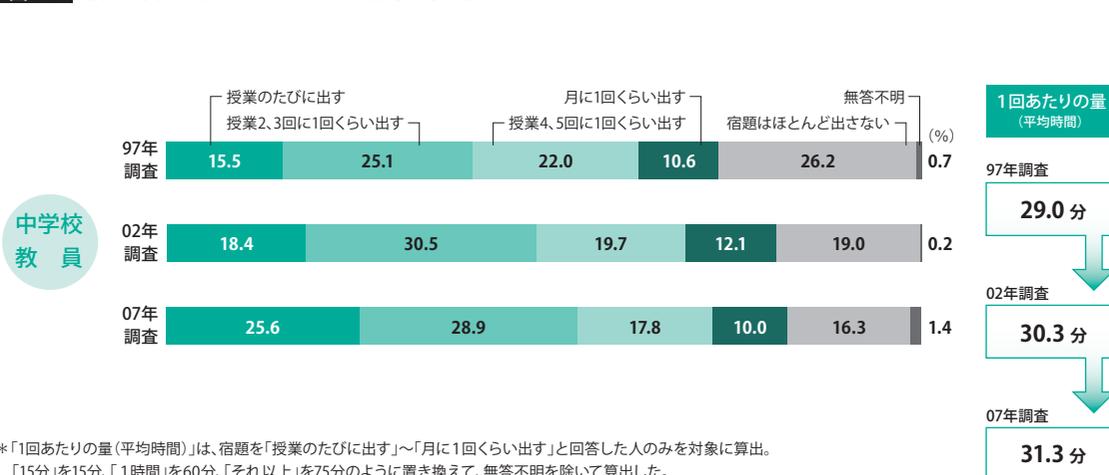
図3-7 宿題を出す頻度と1日あたりの量(小学校教員)



Q どのくらい宿題を出していますか。

Q 宿題は、平均的な生徒にとってほしい1回何分くらいの量になりますか。(「授業のたびに出す」～「月に1回くらい出す」と回答した人のみ)

図3-8 宿題を出す頻度と1回あたりの量(中学校教員)



小学校では、94.0%の教員が宿題を「毎日出す」と回答しており、その割合は98年調査や02年調査より高まっている。1日あたりの分量(平均時間)も34.2分と増加している。

一方、中学校では、25.6%の教員が宿題を「授業のたびに出す」と回答しており、97年調査や02年調査に比べてこの割合は高まっている。

5

家庭学習指導

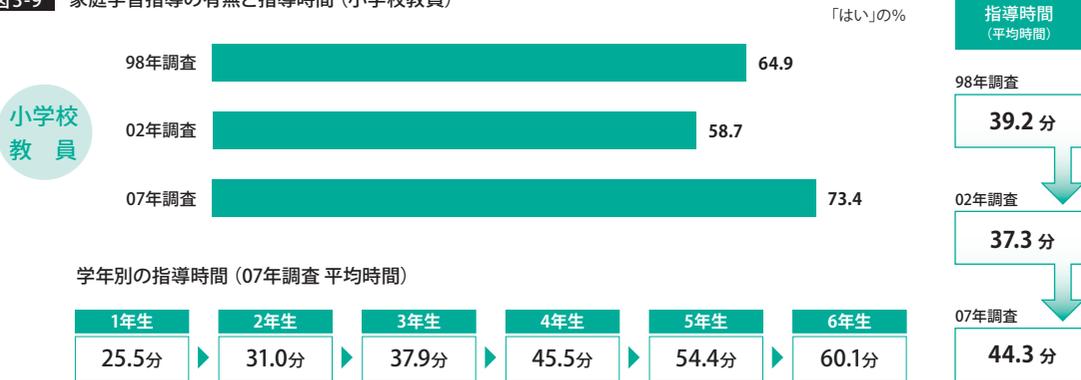
家庭での学習時間の指導をする割合が高まっている

家庭での学習時間の指導をする教員は、02年調査から07年調査の間で、小学校では58.7%から73.4%に、中学校では63.5%から72.9%に増加している。

Q 受け持ちの児童に対して家庭での学習時間の指導をしていますか。

Q ふだん何時間くらい学習するように指導していますか。平日の平均をお答えください。（「はい」と回答した人のみ）

図3-9 家庭学習指導の有無と指導時間（小学校教員）

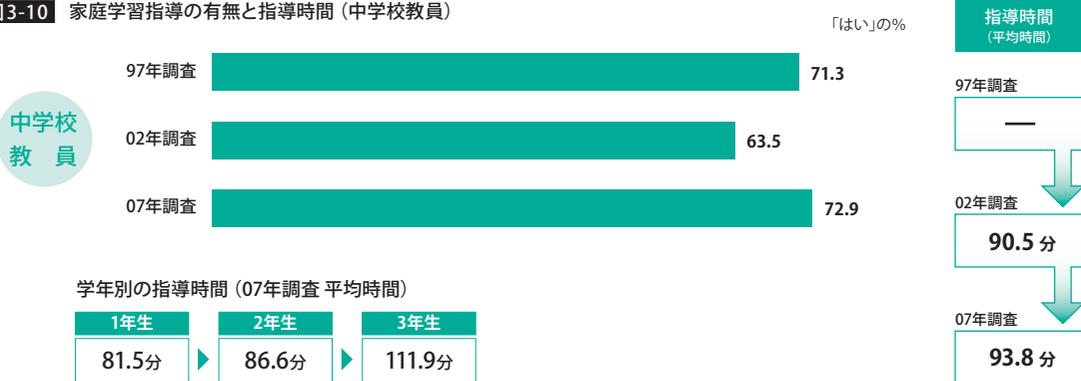


*「指導時間(平均時間)」は、「家庭での学習時間の指導をしていますか」の設問で「はい」と回答した人のみを対象に算出。「15分」を15分、「3時間」を180分、「それ以上」を210分のように置き換えて、無答不明を除いて算出した。

Q 受け持ちの生徒に対して家庭での学習時間の指導をしていますか。

Q ふだん何時間くらい学習するように指導していますか。平日の平均をお答えください。（「はい」と回答した人のみ）

図3-10 家庭学習指導の有無と指導時間（中学校教員）



*「指導時間(平均時間)」は、「家庭での学習時間の指導をしていますか」の設問で「はい」と回答した人のみを対象に算出。「15分」を15分、「3時間」を180分、「それ以上」を210分のように置き換えて、無答不明を除いて算出した。
なお、97年調査は、時間の選択肢の形式が異なるため分析から除外した。

家庭での学習時間の指導をしている教員の割合は、02年調査では小・中学校とも減少していたが、07年調査ではいずれも増加し、小学校で73.4%、中学校で72.9%である。また、ふだん何時間くらい家庭で学習するように指導しているのかをたずねたとこ

ろ、小学校1年生の教員では平均時間は25.5分だが、小学校6年生では60.1分である。また中学校では、中学校3年生の教員がとくに多く、平均して111.9分である。学習するように指導している時間は学年が上がるにつれて長くなっていることがわかる。

6 評価

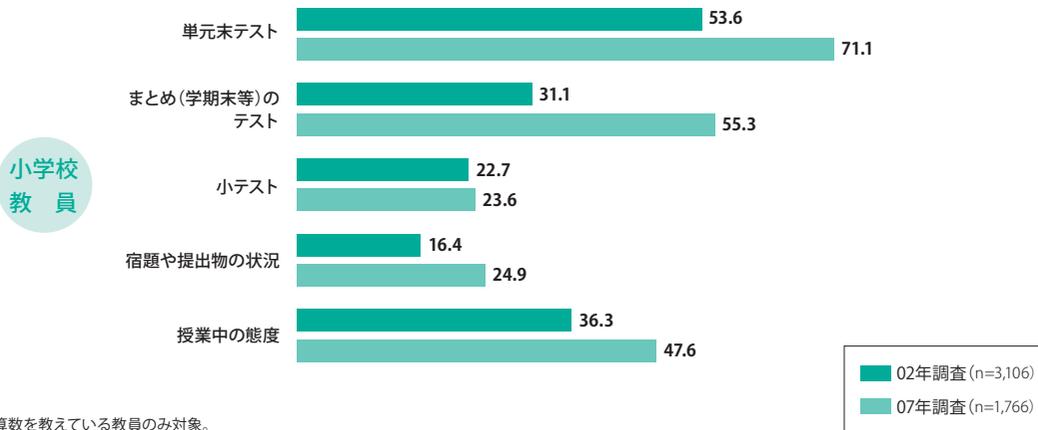
さまざまな観点から評価が行われるようになっている

小学校では「単元末テスト」「まとめのテスト」「授業中の態度」、中学校では「定期試験」「宿題や提出物の状況」を「とても重視する」という割合が高まっている。

Q 算数の通信簿をつけるとき、次の結果をどれくらい重視しますか。(算数を教えている教員のみ)

図3-11 算数の通信簿をつける材料(小学校教員)

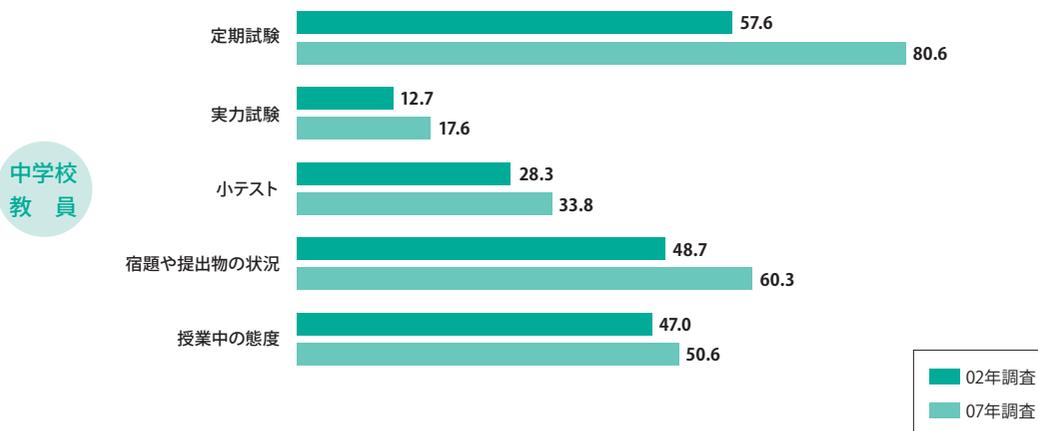
「とても重視する」の%



Q 担当教科の通信簿をつけるとき、次の結果をどれくらい重視しますか。

図3-12 担当教科の通信簿をつける材料(中学校教員)

「とても重視する」の%



通信簿をつけるとき、教員はどのような結果を重視しているのだろうか。02年調査と比較したところ、小学校では「単元末テスト」(02年調査53.6%→07年調査71.1%)、「まとめのテスト」(31.1%→55.3%)、「授業中の態度」(36.3%→47.6%)、「宿題や提出物の状

況」(16.4%→24.9%)、中学校では「定期試験」(57.6%→80.6%)、「宿題や提出物の状況」(48.7%→60.3%)など、多くの項目で「とても重視する」という回答が増加している。小・中学校ともに、さまざまな観点から評価が行われるようになっている。

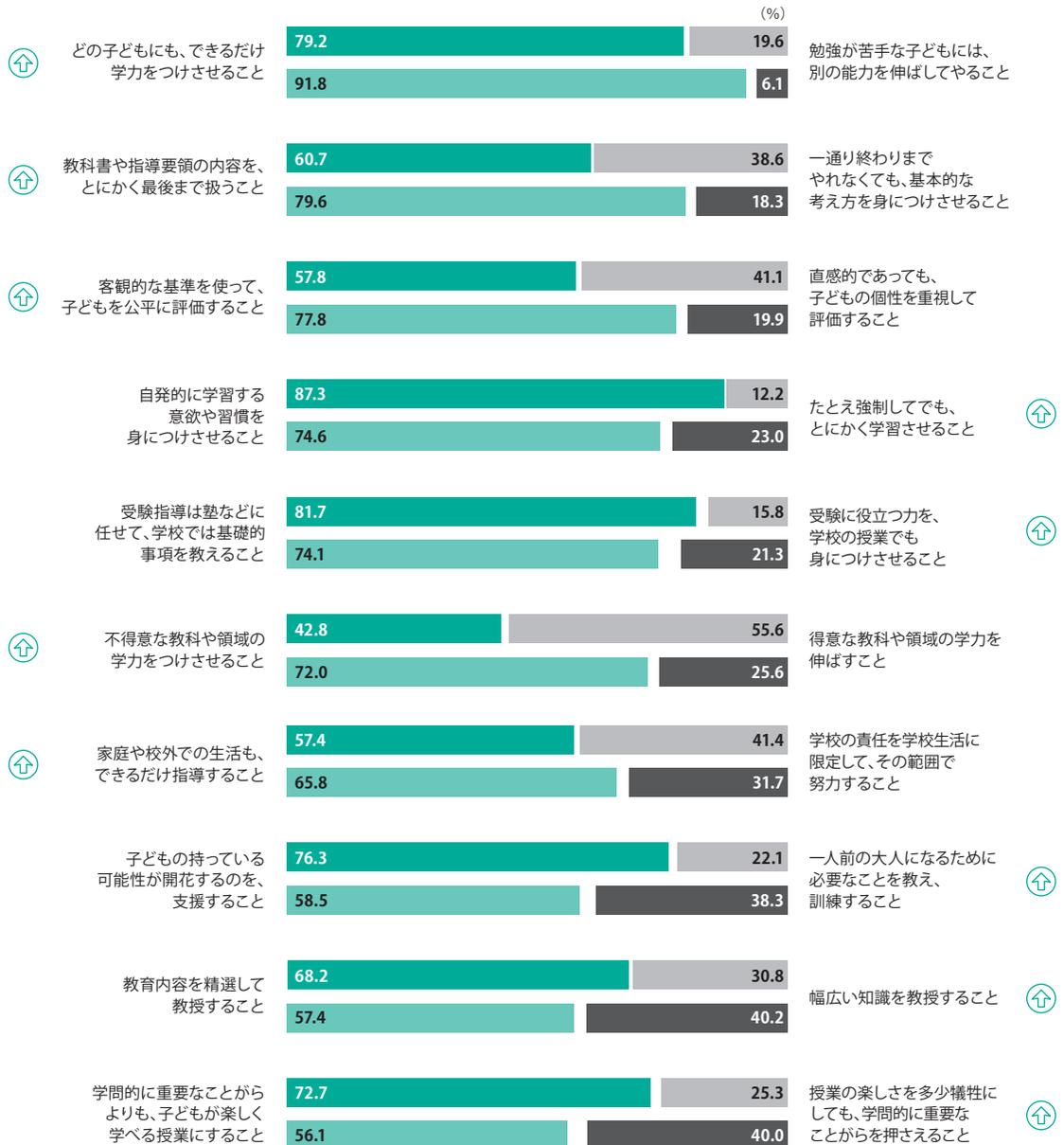
1 教育観

子ども中心・自主性尊重から、教員中心・しつけや学力向上重視に大きく転換
この10年間で、どの子どもに対しても、学校ができるだけ学力をつけさせるという
教育意識へと大きく変化している。

Q 授業や生活指導の面で、どのようなことを大切にしていますか。
あえていえば重視していると思うほうの番号1つに○をつけてください。

図4-1 授業や生活指導で大切にしていること（小学校教員）

98年調査 ■ 07年調査 ■



*2つの項目のうち、いずれか一方を選択。
「無答不明」があるため、各設問の合計は100%にならない。

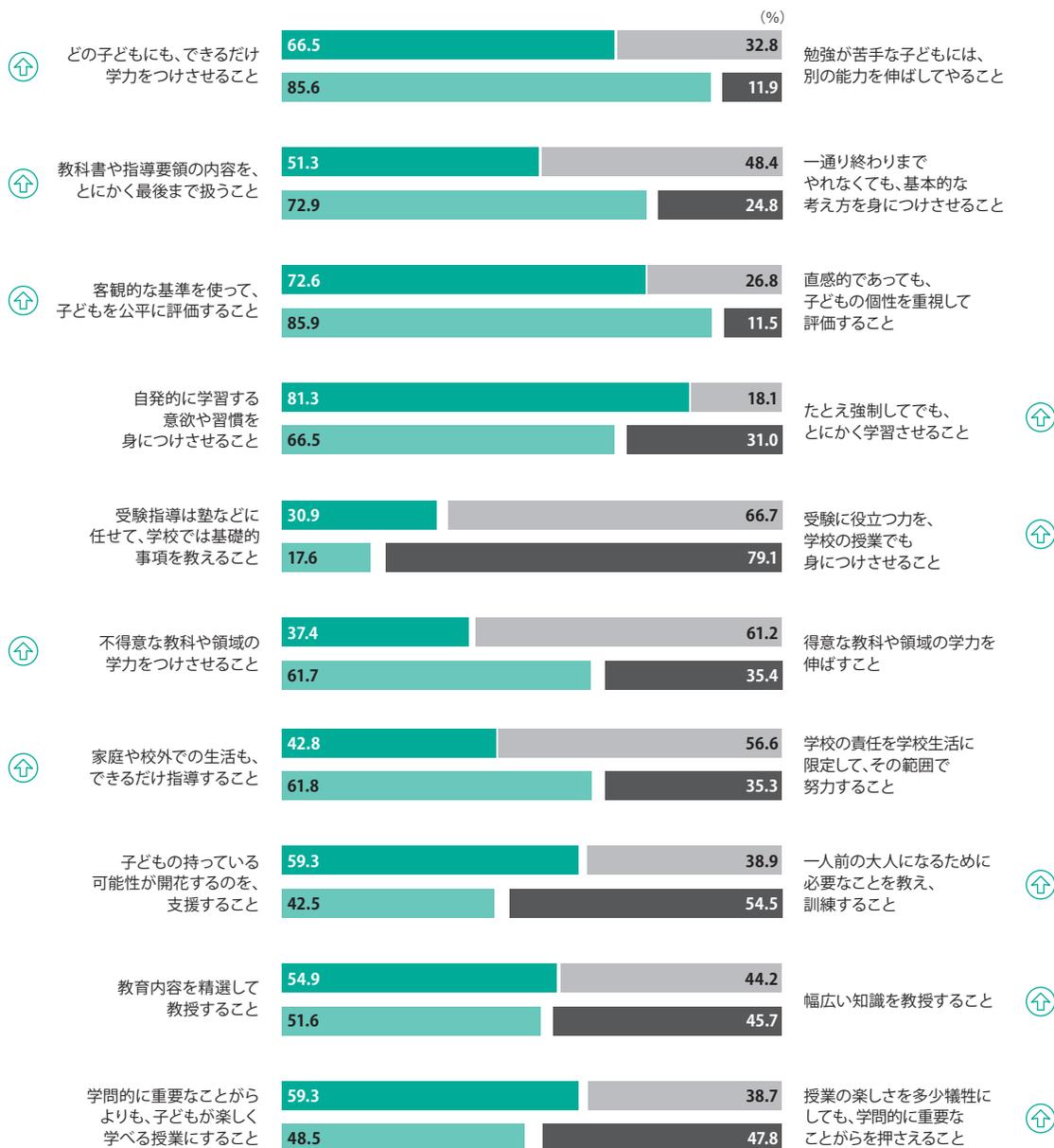
↑ は98年調査から07年調査にかけて増加した項目を示す。

教育観についてたずねたところ、小・中学校の教員ともに、10年間で大きな変化がみられた。小学校教員について98年調査と07年調査を比較してみると、「どの子どもにも、できるだけ学力をつけさせること」が79.2%から91.8%に、「不得意な教科や領域の学力をつけさせること」が42.8%から72.0%に増加するなど、学力

向上を重視する意識が高まっている。一方、「自発的に学習する意欲や習慣を身につけさせること」が減少し(87.3%→74.6%)、「家庭や校外での生活も、できるだけ指導すること」が増加する(57.4%→65.8%)など、自主性を尊重しようという意識が弱まっている。こうした傾向は、中学校教員も変わらない。

図4-2 授業や生活指導で大切にしていること（中学校教員）

97年調査 ■ 07年調査 ■



*2つの項目のうち、いずれか一方を選択。
「無答不明」があるため、各設問の合計は100%にならない。

↑ は97年調査から07年調査にかけて増加した項目を示す。

2 教員の悩み

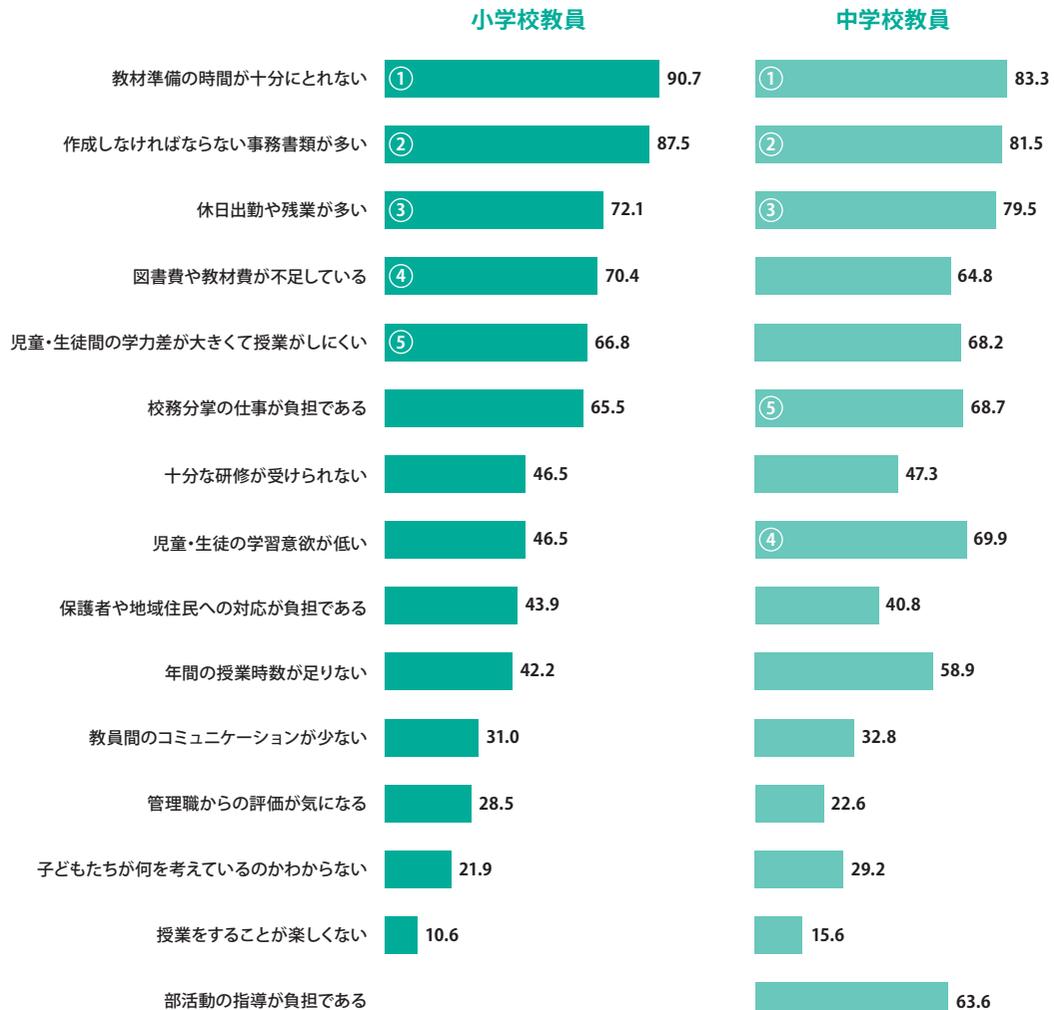
忙しいことに悩んでいる教員が多い

小・中学校とともに「教材準備の時間が十分にとれない」「作成しなければならない事務書類が多い」「休日出勤や残業が多い」が7割を超える。

Q 次のような悩みをどれくらい感じていますか。

図4-3 教員の悩み（小・中学校教員）

「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%



*小学校教員には「部活動の指導が負担である」はたずねていない。

*小・中学校教員のそれぞれ上位5位までを①②③④⑤と表示。

日ごろ悩みに感じていることをたずねたところ、小・中学校の教員とも「教材準備の時間が十分にとれない」（小90.7%、中83.3%）がもっとも多く、次いで「作成しなければならない事務書類が多い」（小87.5%、中81.5%）、「休日出勤や残業が多い」（小72.1%、中79.5%）と続いた。教員は日々の忙しさに悩みを感じて

いるようだ。また、「児童・生徒の学習意欲が低い」（小46.5%<中69.9%）、「年間の授業時数が足りない」（小42.2%<中58.9%）は、中学校教員のほうが多い。中学校教員のほうが、学習指導にかかわる悩みを感じていることがわかる。

3

児童・生徒の
変化

児童・生徒の学力格差が広がったと感じる教員が増加
学力水準の認識については大きな変化はないが、
学力格差が「大きくなった」という教員の回答が増加している。

Q 数年前と比べて、最近の児童・生徒はどう変わってきていると思いますか。

図4-4 児童・生徒集団の学力水準（小・中学校教員）

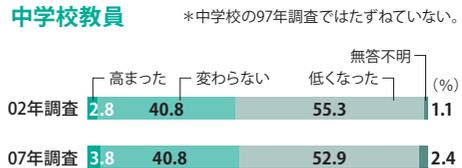
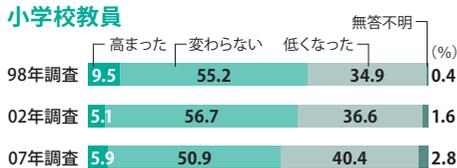
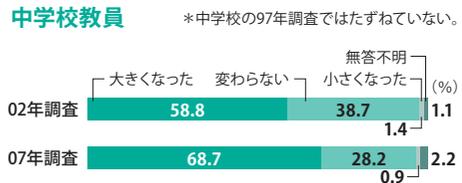
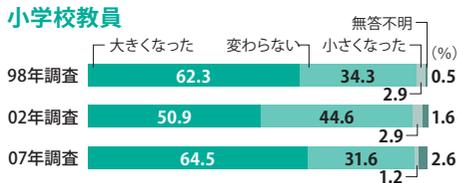


図4-5 児童・生徒間の学力格差（小・中学校教員）



児童・生徒間の学力格差が「大きくなった」という回答は、小学校教員では50.9%（02年調査）から64.5%（07年調査）へと13.6ポイント、

中学校教員では58.8%から68.7%へと9.9ポイント増加している。一方、学力水準についての認識には、あまり大きな変化はみられない。

4

満足感

7割が自分自身の教員生活に満足している

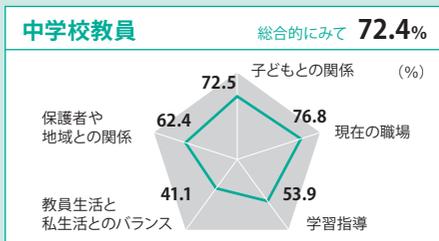
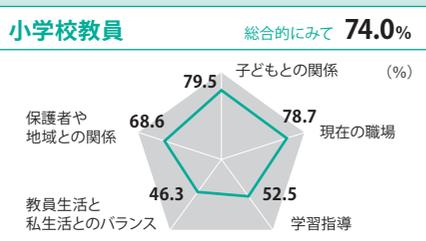
6～7割の教員が「子どもとの関係」「現在の職場」「保護者や地域との関係」に満足しており、「総合的にみて」も7割が自分自身の教員生活に満足している。

Q 教員として、次のようなことにどれくらい満足していますか。

Q 総合的にみて、ご自身の教員生活に、どれくらい満足していますか。

図4-6 満足感（小・中学校教員）

「とても満足している」+「まあ満足している」の%



小・中学校の教員とも、6～7割が「子どもとの関係」「現在の職場」「保護者や地域との関係」について「満足している（とても+まあ）」と回答しており、「総合的にみて」も7割が自分自身の教員生活に

満足している。一方、「学習指導」について満足しているのは5割、「教員生活と私生活とのバランス」については4割台だった。

第4回学習指導基本調査

学習指導基本調査 調査企画・分析メンバー

耳塚 寛明	お茶の水女子大学教授 研究会代表
樋田 大二郎	青山学院大学教授
西島 央	東京大学助教
諸田 裕子	東京大学産学官連携研究員
木村 治生	Benesse 教育研究開発センター教育調査室長・東京大学客員准教授
邵 勤風	Benesse 教育研究開発センター研究員
朝永 昌孝	Benesse 教育研究開発センター研究員
直井 多美子	Benesse 教育研究開発センター研究員

『第4回学習指導基本調査 報告書』2008年3月刊行予定

本調査の詳細な分析をまとめた報告書を2008年3月に刊行する予定です(220頁程度、頒価1,000円)。報告書をご希望の方は、Benesse教育研究開発センターのWEBサイトの「報告書の申込み」、もしくはお電話で直接お申込みください。発刊次第、お届けいたします。なお、この報告書は、書店ではお買い求めになれません。

Benesse教育研究開発センターのWEBサイトのご案内

Benesse教育研究開発センターで実施している各種調査結果は、下記のWEBサイトにてご覧いただけます。

Benesse教育研究開発センター >> <http://benesse.jp/berd/>

お問い合わせやご注文はこちらまでどうぞ

〒163-1422 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー22階
(株)ベネッセコーポレーション Benesse教育研究開発センター 教育調査室 「第4回学習指導基本調査」係